

鳥インフルエンザと新型インフルエンザ

毎年冬になり低温乾燥の季節になると、インフルエンザの流行がみられます。例年ヒトの間で流行しているインフルエンザは、主にA型とB型で、平成16年度はB型、平成17年度はA型が多かったようでした。さて、本年度はどうなることでしょうか。

最近、宮崎県の養鶏所で鳥インフルエンザが発生し多数の鶏が死亡し、感染の拡大を防止するために、養鶏所を隔離して残った鶏の処分を行なったと報道されています。報道を見るたびに鳥インフルエンザが今にもヒトの間で流行して多くの死亡者がでるのではないかと不安になります。過度に不安にならぬよう、今回は話題となっている鳥インフルエンザと新型インフルエンザについてお話しようと思います。

鳥インフルエンザとは

鳥インフルエンザもA型インフルエンザに属しています。A型インフルエンザは多くの亜型があり、現在ヒトの間で流行がみられる亜型は、ソ連型（H1N1）と香港型（H3N2）などの数種類です。鳥インフルエンザの亜型はN5H1でヒトの間では今まで流行したことのない亜型です。渡り鳥（野生の鴨などの水禽類）はほとんどすべての亜型を有しており、渡り鳥から鶏が感染すると考えられています。鶏は渡り鳥よりインフルエンザの感受性が高いため高病原性鳥インフルエンザとなります。感染した鶏に濃厚に接触したヒトにも鳥インフルエンザの感染がみられ、極まれではありますが感染したヒトから別のヒトへの感染も報告されています。世界中（中国、東南アジアが主体）で2006年8月までに238名のヒトの鳥インフルエンザがあり、高い死亡率であったとされています。報告されない軽症の鳥インフルエンザ患者も多く、実際の死亡率はもっと低いと思われます。また幸いなことに、今のところトリからヒトへの感染性は低く、感染したヒトからヒトへの感染性はさらに稀であるため、現時点ですぐに大流行はなさそうです。

新型インフルエンザとは

しかし、インフルエンザウイルスは少しずつ型を変化させる性質があります。鳥インフルエンザもヒトに対して感染しやすい性質（鳥からヒト、ヒトからヒトへ感染する性質）を獲得したら、今まで人類の経験したことのない亜型でヒトに免疫がないために、短期間に広範囲に多数の感染者の発生が予想されます。

このようにヒトへの感染力を獲得し、大流行を起こした時点で鳥インフルエンザは新型インフルエンザと変わります。

新型インフルエンザの対策

現在ヒトへの感染力は低い状態なので、鶏などで発生した鳥インフルエンザを隔離して感染の拡大を防止することが第一です。感染拡大が継続すると、鳥インフルエンザはヒトに感染しやすい性質に変化する可能性が高くなります。できるだけ早期に感染を断ち切ることが重要なのです。宮崎県の養鶏所での対処もその感染拡大防止目的で、世界中が協力して取り組んでいるところです。

もし不幸にして新型インフルエンザになったとしても、現在ヒトのインフルエンザに用いられている抗インフルエンザ薬がある程度有効であることがわかっています。各国もこの薬の備蓄を始めています。また、新型インフルエンザに対するワクチンの開発も行なわれています。

また、新型インフルエンザが流行した際の受け入れ医療機関の決定とその周知の準備もすすんでいるとのこと。県や市の指示に従って冷静に対応しましょう。

我々はかつて何度か新型インフルエンザを経験しているのです。特に有名なのは、第一次世界大戦のころ大流行して世界中に猛威を奮ったスペインカゼがあります。当時と比べて、インフルエンザに対する知識も対処法も数段進歩しています。過度に不安にならず、冷静に対応することが大事です。

【広報おかや2月1日号掲載】